

外国籍の子どもたちのプレスクール見学

4月に入国管理法が改正され、外国籍の方々がより多く日本に働きに来ることが可能になりました。必然的に子どもたちも増えます。

日本国籍の子どもたちでも待機児童がでるくらいの保育園事情なので、日本語がわからない人たちが、子どもを保育園に預けることはより大変です。

就学前の外国籍の子どもたちを預かっている保育所に見学に行ってきました。

☆スタッフや子どもたち

見学時は園長先生と、3～5人のスタッフ（ボランティアの方も含んでいます）で運営されていました。

園長先生は朝5:30から子どもをお迎えに行き、夜10時過ぎまで預かっていることもよくあるのだとか…そして、ボランティアの方々には無償でお手伝いに来ている方もいらっしゃいました。

子どもたちは50人ほど、よちよち歩きの子から年長さんまでいました。言語は、英語、ポルトガル語、スペイン語、ヒンドゥー語、そして日本語が飛び交っていました。

☆運営方針は

子どもたちが小学校へ入っても困らないように、椅子に座っていることに慣れたり、日本語に慣れるように工夫したり（そのためには、母国語と日本語の両方で伝えます）、みんなで手を洗うなど日本の集団生活にすんなりと入れるように指導していらっしゃいました。



☆課題は山積

子どもたちには、日本の親が持つような、小学校へなじむためにはどうしたらよいか？などの課題はもちろんあります。その上に、親と学校のコミュニケーションの課題もあります。

プレスクールの運営も課題です。使命を感じて運営しても経営が難しく、撤退に追い込まれてしまう団体もたくさんあるとか。備品も子どもの成長にあったものを使いたいなど、数えるとキリがないほどです。

☆一言では言えないたくさんの情報をいただいた見学でした。

伺った日はお誕生日会の日でした。保護者の方のお祝いのケーキや食事会があり、分かち合うというのを実感できた時間でした。